

企業様と学校をつなぐ

社会発見！ サイエンス講義

ご参画提案書



企画趣旨

本企画は、文部科学省のスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）指定校をはじめ、主に理数科目の教育に力を入れている学校の生徒の皆様を対象に、企業様から講師を学校に派遣し、事業活動や研究開発活動の最前線を講義するものです。

近年、「理数系人材」への期待が高まる一方で、人材の不足が深刻な問題となっています。社会全体で次世代を担う「理数系人材」を育成することは喫緊の課題です。

日経サイエンスでは1971年の創刊以来、内外の研究者が取り組んでいる最先端の科学技術の情報をお届けして参りました。

半世紀にわたる知見と人脈を踏まえて、企業様と生徒様が「第一線の技術開発や科学研究」でつながる「サイエンス講義」で、理数系人材の育成・教育をサポートいたします。

生徒の皆様にとって、社会と直接繋がることのできる企業様の「サイエンス講義」は、日々の学習の重要性を再認識し、将来のキャリアプランを考える機会となります。

企業様にとって、会社のことや自分の仕事を若い世代に説明することは、次世代の豊かな人材を育むとともに、講師様ご自身のリスキリングの機会にもなります。

日経サイエンス
日本経済新聞社



ご参画のメリット

■ 事業や研究活動を次世代リーダー層に直接伝えることができます

本講義を通じて、貴社の事業内容や研究・開発活動の様子を科学やビジネスに興味を持つ生徒様（中高生を中心に、高専、小学生、大学生）および先生方に直接伝えることができます。

■ 次世代リーダー層を対象にしたファンづくりにつながります

全国の進学校での講義は、次世代のリーダーとなる生徒様にとって、進路を決める大きなきっかけとなるとともに、貴社に対する親近感や信頼感を喚起します。将来の優秀な人材の採用にもつながります。

■ 研究者のリスキリングに活用

若手研究者が講師をつとめる場合は、社業や製品の技術、日頃の研究活動を生徒様に分かりやすく伝えるための「プレゼンテーションの訓練」の機会となります。また、コミュニケーション力や仕事に対する意欲の向上にもつながります。

■ 日経サイエンスの誌面やHPで、講義の様子を広く社会に伝えます

講義の様子は日経サイエンスの誌面とHPでご紹介いたします。

動画制作のオプションもご用意しました。

また日本経済新聞朝刊／電子版、日経ビジネス本誌、BSテレビ東京、ラジオNIKKEIとの連携も可能です。

各オプションの詳細は11～14ページをご参照ください。



講義のスタイル

オンラインやハイブリッドでは、遠方の研究所や学校とつないで講義をすることも可能です。

出張講義

企業様が学校様に出向いて頂き講義を行う「出前講義」スタイルです。講義に加えて、生徒様の前で実験を行ったり、グループワークやVR体験など、生徒様参加型の講義も可能です。

見学&講義

企業様の研究所や施設に生徒様が出向き、見学しながら講義を受けるスタイルです。実施例として、清水建設技術研究所様、セコムIS研究所様、などがあります

オンライン

Zoom*などのオンライン会議ツールを使い、動画を効果的に使ったり、グループワークをとり入れたり、講義の内容に合わせて様々な展開が可能です。オンライン講義のホスト、進行管理は日経サイエンスで行います。*使用するツールはご相談ください。

ハイブリッド

講師の方に学校様に出向いて頂き、貴社の研究所や施設とオンラインでつなぎながら講義をする、という「出張講義」と「オンライン」のハイブリッド型です。



サイエンス講義の Q & A

講義のテーマや内容、学校の選び方、一番初めにご質問が多く寄せられるポイントをまとめました。

講義の資料作りはどうしたらいい？

事業紹介や最先端の研究、を中心に自由に構成いただけます。
学校向けにはどのようにしたらよいただろう、どのようなテーマが効果的？
と迷われた場合は遠慮なくご相談ください。
講義の組み立てについては、6ページをご参照ください。

学校選びはどうしたらいい？

スーパー・サイエンス・ハイスクールを中心に、これまで実施した学校の中からお選びいただけます（8ページの学校一覧をご参照ください）。
また、ご希望の学校、講師の方の母校で、などのリクエストも可能です。
学校とのコンタクトなどは全て日経サイエンスが行います。

※実施にあたってのマニュアルもご用意しております。



講義の構成

講義の時間は平均90分～120分(学校様によって異なります)
内容に合わせて、さまざまな構成が可能です。

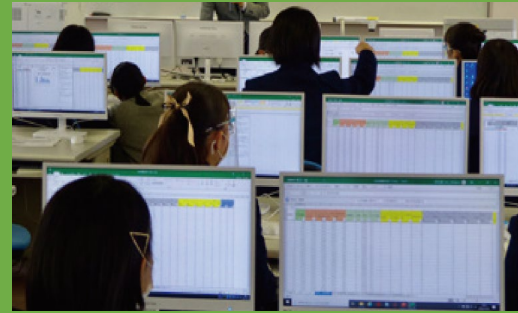
講義



実技／実験



演習／グループワーク



講義

講義

+

実技／実験

講義

+

演習／グループワーク

オンラインでも、動画などをご活用
いただくことで、実技や実験を配信
することが可能です。
また、遠方の研究所や工場の見
学も、バーチャルで開催すること
ができます。
グループワークも実施可能です*。
*使用するオンラインツールで異なります。



お申込みから講義、採録までの流れ

ご参画決定後1～2週間 事前打合せ

- ・ 貴社と日経サイエンス（日本経済新聞社）で事前打合せをいたします。
（講義の内容・授業実施校のご要望ヒアリング）
- ・ 実施校の選定を行います。
※これまでの実施校を中心に推薦いたします。実施校一覧は8ページをご覧ください。
※実施校のご希望がありましたら、日経サイエンスで打診をいたします。

事前打合せ後1～2週間 実施校、講義日の決定

講義日の1カ月前まで 講義内容の決定、講義資料の作成

- ・ 講義の資料の作成（講義用のプレゼン資料、および生徒様募集用のチラシ）
※講義内容について、日経サイエンスで企画・提案も可能です。ご相談ください。

講義日から1～2か月後 日経サイエンス本誌、HPに掲載

- ・ 採録を日経サイエンス本誌、HPに掲載いたします。
※毎月25日が日経サイエンスの発行日です
※オプションの掲載がある場合は、各媒体のスケジュールに準じます。



これまでサイエンス講義を実施した主な学校

西日本（岡山,愛媛,兵庫,大阪,京都,愛知）

- 大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎
- 京都府立洛北高等学校
- 高槻中学校・高等学校
- 兵庫県立神戸高等学校
- 兵庫県立宝塚北高等学校
- 岡山県立岡山朝日高等学校
- 愛媛県立今治西高等学校
- 愛知県立岡崎高等学校

東日本（栃木,群馬,神奈川,埼玉,千葉）

- 小山工業高等専門学校
- 群馬工業高等専門学校
- 神奈川県立柏陽高等学校
- 神奈川県立湘南高等学校
- サレジオ工業高等専門学校
- 聖光学院中学校・高等学校
- 洗足学園中学高等学校
- 埼玉県立川越女子高等学校
- 立教新座中学校・高等学校
- 千葉県立船橋高等学校

東京

- お茶の水女子大学附属高等学校
- 世田谷学園 中学校・高等学校
- 中央大学附属中学校高等学校
- 千代田区立九段中等教育学校
- 筑波大学附属駒場中・高等学校
- 東海大学付属高輪台高等学校
- 東京学芸大学附属国際中等教育学校
- 東京学芸大学附属高等学校
- 東京都立小石川中等教育学校
- 東京都立産業技術高等専門学校
- 東京都立戸山高等学校
- 東京都立西高等学校
- 東京都立日比谷高等学校
- 東京都立武蔵高等学校・附属中学校
- 東京都立両国高等学校・附属中学校
- 豊島岡女子学園中学校高等学校
- 早稲田大学高等学院・中学部



サイエンス講義参画料金

講義の企画・運営・採録原稿を制作いたします。

1回（1校）

4C1P掲載

+日経サイエンスホームページ内
サイエンス講義欄

120万円

掲載費70万円
企画・運営・制作費50万円

4C2P掲載

+日経サイエンスホームページ内
サイエンス講義欄

220万円

掲載費140万円
企画・運営・制作費80万円

※金額はすべて税別です。

※2回以上（年間）は回数料金をご用意しております。ご相談ください。

※其他媒体へのオプション掲載（13ページ参照）は別途ご相談ください。

* 遠方での取材は別途交通費を実費請求させていただきます。



講義の採録は日経サイエンス本誌、日経サイエンスホームページに掲載いたします



日経サイエンス本誌



日経サイエンスホームページ



日経サイエンスホームページに貴社のホームページのリンクを貼り、サイトへ誘導することも可能です。



オプションメニュー 日経チャンネル | NIKKEI CHANNEL

講義のダイジェスト動画を制作、日経チャンネルに掲載いたします。

<https://channel.nikkei.co.jp/>



CSR（企業の社会的責任）活動の一環として、企業様が持つ技術、商品・サービスなどを活用して、学校への出前授業を行う事例が増えています。日経チャンネルや自社ホームページで動画を配信することで、より多くの人に授業を見ることが可能になり、CSR活動の効果を一段と高められます。

ダイジェスト動画のメニューを2種類ご用意しました。
次ページ（12ページ）で詳細をご紹介します。



オプションメニュー 日経チャンネル | NIKKEI CHANNEL

講義を3分～5分にまとめたダイジェストを制作します。構成は2パターンをご用意しました。

※5分以上のダイジェストをご希望の場合は別途お見積りいたします。

※日経チャンネルのレポート提出は含みません。レポート生成には別途手続きが必要になります。

パターンA

テレビ番組的な手間をかけた構成です

事前取材で、講義の重要ポイントとご希望をおうかがいします。

それを踏まえて、経験豊富な映像制作担当が

「授業のテーマと貴社の特徴を視聴者に強く印象付ける講義」に収録・編集いたします。

- 固定カメラで講師のバストショットとレコーダーでパウポを丸ごと収録。
- ハンディカメラで授業風景を自在に収録します。
- 生徒インタビューで、生徒目線での講義の魅力をお伝えします。
- ラストに講師コメントを入れることにより、視聴者の理解を深めます。

オプション料金 1,200,000円（税別）

※上記料金には制作費、日経チャンネルの掲載費を含みます。
※遠方での取材は別途交通費を実費請求させていただきます。

パターンB

シンプルに授業を短くした動画です

- 挨拶、授業開始、講師、質疑応答、最後の挨拶と、あらかじめ決まっているポイントを中心に収録&編集します。
- 撮影はカメラ1台です。

オプション料金 750,000円（税別）

※上記料金には制作費、日経チャンネルの掲載費を含みます。
※遠方での取材は別途交通費を実費請求させていただきます。

【ダイジェスト動画の効果】

- 動画と同時録音された音声で、授業風景が生き生きと伝わります。
- 90分～120分の授業を3分～5分にまとめることにより、視聴ハードルが下がります。
- 盛り上がっている部分を抜粋して効果的につなぐことにより、講義の期待感が上がります。
- 授業を受けた生徒の声を聞くことができます。
- 編集した動画は、貴社のHPにもご活用いただけます。
- 日経チャンネルのサイトに最長1年間掲載可能です。



他媒体との組み合わせ オプションメニュー

他媒体との組み合わせで、貴社の活動を広く訴求することが可能です。

※グロス料金です。

※BSテレビ東京、ラジオNIKKEI とのコラボも可能です。お問い合わせください。

日経ビジネス 本誌



日経ビジネス本誌（毎週月曜日発行）に掲載

※日経サイエンスと同じ原稿になります

オプション特別料金 4C1P 2,100,000円(税別)

※掲載ページの指定はできません。

日本経済新聞 朝刊／電子版 パッケージ企画

**日本経済新聞 本紙朝刊、日経電子版との
パッケージ企画です。**

※詳細は次ページをご覧ください。



日本経済新聞朝刊、日経電子版とのパッケージ



紙面



デジタル



イベント

講義の構成

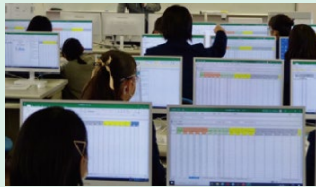
講義



実技 / 実験



演習 / グループワーク



60分~120分、講義の内容に合わせてリアルでもオンラインでも、様々な構成が可能です
※日程(平日・土日) 時間(講義全体の時間や放課後等)については応相談

講義 60分~120分 / 1名~複数の講師の方の講義

講義

+

実技 / 実験

講義

+

演習 / グループワーク

オンラインでも動画などをご活用いただくことで、実技や実験を配信することが可能です。また、全国各地の研究所や工場の見学もバーチャルで開催することができます。グループワークも可能です*。
*使用するツールによる

採録イメージ(日経本紙15段カラー)



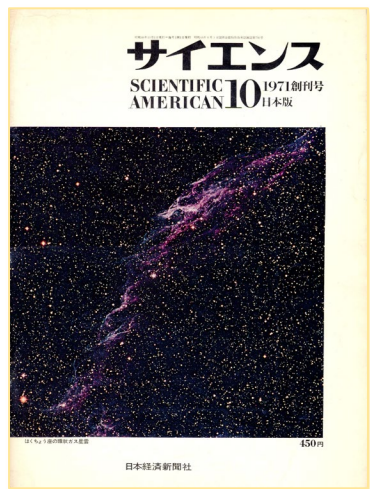
採録イメージ(日経サイエンス)



ご協賛に含まれるメニュー(講義1回)	A協賛		B協賛	
	28,750,000円		9,000,000円	
出張授業運営費(学校アサイン・講義内容に関するオリエン・聴講募集など)	○	○	○	○
事後採録/日本経済新聞 本紙朝刊 15段カラー 1本 ※制作費込み	○	○	○	○
事後採録/日経電子版タイアップ 1本 ※制作費込み	○	○	○	○
事後採録/日経サイエンス カラー2ページ+サイト ※制作費込み	○	○	○	○

*日経本紙と日経電子版、両方での採録を希望される場合は弊社担当営業にお問い合わせください
*消費税別となります

日経サイエンスとは

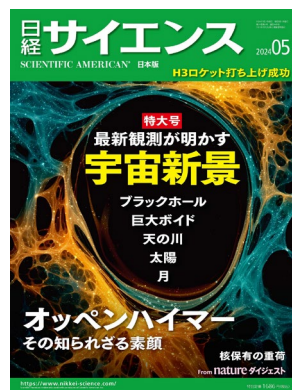


日経サイエンスは、1971年9月、米国の一般科学雑誌 SCIENTIFIC AMERICANの日本版として創刊、2025年で54年目となります。

この半世紀の間、科学技術の最新の研究成果やテーマを、アインシュタインやクリックなどのノーベル賞受賞者をはじめ、ホーキングなどの著名な科学者、専門ジャーナリストらが執筆した記事で紹介してきました。

2020年の新型コロナウイルスによるパンデミックでは、日経サイエンスが半世紀で培ってきた科学情報を土台にエビデンスの高い情報をいち早く提供、ご好評をいただきました。フェイクニュースがあふれる時代、「信頼できる科学情報」をお届けしています。

創刊：1971年9月
発行部数：18,000部
発行形態：年間定期購読による読者直送方式
書店・日本経済新聞販売店
※電子版は電子書店にて販売



日経サイエンス 読者プロフィール

- 調査対象：日経サイエンス定期購読者
- 調査方法：郵送調査
- 調査日程：調査票発送2022年5月30日（月）～6月10日（金）
- 回収状況：発送数1000人 有効回収数529人 回収率52.9%

日経サイエンスの
読者は
知的好奇心が高く
約4割が大学院卒
の高学歴

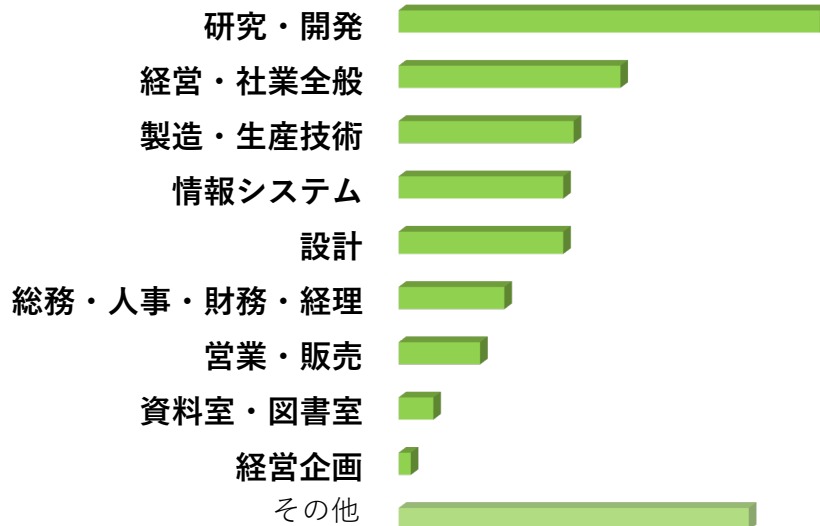
購読の目的
科学の最先端に
触れたい
83.4%

約4割が
大学院卒

勤務先での職種

研究・開発、設計に携わる読者が33.8%

※民間企業勤務と回答した方の割合



研究・専攻対象と 関係が深いテーマ 上位20

- ①医学
- ②生物学
- ③感染症
- ④環境
- ⑤認知症・神経疾患
- ⑥化学
- ⑦量子情報・量子コンピューター
- ⑧植物
- ⑨農学
- ⑩ロボット
- ⑪教育
- ⑫気候
- ⑬宇宙論・素粒子論
- ⑭海洋
- ⑮人類学
- ⑯地質学
- ⑰宇宙開発
- ⑱地震・火山
- ⑲社会学
- ⑳建築





本件に関するお問い合わせ

日経サイエンス 事業グループ
東京都千代田区大手町1-3-7
sc-pub@nex.nikkei.co.jp

